

令和7年度

帰 国 生 入 試

中学校 入学試験問題

国 語

注 意

- 1 合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
- 2 始めの合図があったら、解答用紙の決められたらんに、受験番号、氏名を記入してから始めなさい。
- 3 声を出して読んではいけません。
- 4 解答は解答用紙の決められたらんに筆記具ではっきりと書き入れなさい。
- 5 試験時間は50分です。
- 6 計時機能以外の時計の使用は認めません。
- 7 試験中、体の具合や気分が悪くなったときは、静かに手をあげなさい。
- 8 終わりの合図があったら、すぐに筆記具を置きなさい。

【一】 次の各問いに答えなさい。

問 一 ①～⑤の——線部の読みをひらがなで答えなさい。また、⑥～⑩の——線部を漢字に直しなさい。

- | | | | |
|---|----------------------|---|-----------------------|
| ① | 彼女は、その歌声で音楽界の旗手となった。 | ⑥ | 一番大切なのは、やっぱりケンコウだね。 |
| ② | 彼は最後に身の潔白を証明した。 | ⑦ | 日本のキセツの変化を楽しむ。 |
| ③ | 類似品には十分注意した方がいい。 | ⑧ | ビジネスに役立つユウエキな情報を仕入れる。 |
| ④ | 仮病を使うのは良くないよ。 | ⑨ | この商品はユソウ中に壊れた。 |
| ⑤ | 穀物は人類にとって重要な食糧源です。 | ⑩ | ソウジュウ士の技術に感心した。 |

問 二 (1)～(3)の問いに答えなさい。

(1) 次の①、②の文章の()に入る表現として正しいものを後のア・イから選び、記号で答えなさい。

- ① 天気は偏西風へんせいふうの影響えいきょうによって、西から東に移り変わります。つまり、()。

- ア 大阪で雨が降ったあと、東京も雨になるのは偏西風の影響です
イ 北海道が晴れると、東京も晴れになることが多いのは偏西風の影響です

②

二〇二二年より、日本の成人年齢ねんれいが二十歳さいから十八歳に引き下げられました。これにより、十八歳になると携帯電話けいたいの契約けいやくや、一人暮らしの部屋を借りるなど、様々な契約を親の同意なしに行うことができるようになります。一方、お酒を飲んだりたばこを吸ったりしていいのは二十歳になってからです。つまり、
()。

ア 成人年齢を引き下げることに対して賛否両論が存在しています

イ 成人年齢の引き下げで十八歳で可能になることとそうではないことがあります

(2) 次のAの文章を読み、Bの文が正しいか正しくないかを選びなさい。

《文章A》

本校に自転車で通う場合は、事前に自転車通学担当の教員からルールの説明を聞き、申請書しんせいを受け取ります。その後、保護者に申請書を書いてもらい、自転車保険加入書のコピーとともに提出する必要があります。審査しんさを通ったら、担当教員から自転車に貼るステッカーを受け取り、それを貼った自転車でのみ登校することができます。登下校の際は十分に交通ルールを守り、安全運転を心がけてください。

《文B》

本校の生徒の自転車にステッカーが貼られているということは、自転車保険にも加入しているということである。

ア 正しい

イ 正しくない

(3) 次の文章を図に表したものととして、適切なのはア・イのどちらですか。記号で答えなさい。

明治初期の廃藩置県^{はいはんちけん}で置かれた県は後に統合され、日本の行政区域は大きく変わった。

たとえば「丹波国」^{たんばのくに}と「但馬国」^{たじまのくに}にあった県が「豊岡県」^{とよおか}に、「摂津国」^{せったのくに}にあった県が「兵庫県」^{ひょうご}に、「播磨国」^{はりまのくに}

にあった県が「姫路県」^{ひめじ}に、「淡路国」^{あわじのくに}にあった県が「名東県」^{みやとう}にそれぞれ編成された。五年後にはこれらの県が統合され「兵庫県」が成立した。

ア

国名	第一次統合 ・ 県名	第二次統合 ・ 県名
たんば 丹波	とよおか 豊岡	兵庫
たじま 但馬		
せつつ 摂津	ひょうご 兵庫	
はりま 播磨	ひめじ 姫路	
あわじ 淡路	みやとう 名東	

イ

国名	第一次統合 ・ 県名	第二次統合 ・ 県名
丹波	豊岡	兵庫
但馬		
摂津	兵庫	
播磨	姫路	
淡路	名東	

【二】次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

日本の教育では、「正解のある問い」の「答え」を頭にたたき込むという手法が主流です。

① その弊害として、素直すぎる人が増えている気がします。ネット検索けんさくをすると「答え」が出てきますが、検索結果のいちばん上に出てきたものをそのまま信じて、それ以上調べたり考えたりしない人が急増しているのです。何か知りたいことがあると、すぐにスマホを出して検索して、そのまま納得してしまうというのは、老若男女を問いません。

検索結果の「答え」は、ＩＴ会社で作った検索エンジンのアルゴリズムにもとづいたものであって、「正解」とは限りません。「これは本当かな」と基本的には疑ってかかるべきです。「正解がある」という思い込みがあると、素直に信じてしまったり、安易に検索してわかった気になってしまったりします。

また人は不思議なもので、図書館に行ったり百科事典を読んだりして、苦勞をして調べたことは忘れませんが、ネット検索で簡単に答えが出てわかった気になると、身につかないものです。「あのとき調べたけど、なんだったっけ？」と、なかなか思い出せない。勉強けんぎょうをしても、自分で一から四苦八苦考えて解いたときと、初めに解き方や答えを見てから解いたときとは、身みにつき方が全然違ちがいます。無意識のうちに、思考力を鍛きたえているかどうかの違いでしょう。

キーワードを入れたら瞬時に答えが出て思考力が成長するきっかけがないこと、「すぐに答えが出てくるのだから、あらゆることに正解はあるのだ」と思い込んでしまうことは、ネット検索の大きな弊害です。

世の中や人生には、「正解」がなかなか見つからないということは、たくさんあります。どんな仕事が自分に向いているのか、誰と結婚けっこんするのかしないのか、子どもの教育方針、自分に合った病氣ちりょうの治療法など……。

③ 「正解のない問い」を考える力なんて自分にはない、いっそ最初から考えない方が楽だ、という若い人も増えているようです。

ニュース番組の街頭インタビューを見ていて、新型コロナウイルスの感染者数が増えつつあるけれどまだ緊急事態宣言は出ていないという頃に、渋谷の若者たちが「早く緊急事態宣言を出してくれないと、俺たちどうしていいかわからない」と答えていました。自分で考えて判断しなさいよ、と思わずテレビの前で突っ込みを入れてしまいました。

いまの子たちは、とても素直です。小学校、中学校、高校と、ずっと先生や親の言うことを素直に聞き、反抗期もそれほどないまま成長して、それが「いい子」だと刷り込まれていると、目上の人、地位のある人が言ったことをそのとおりにとっておけばいいんだ、と「考えない人」になっていく。それが結果的に、「お上が緊急事態宣言を出してくれないと自分たちでは判断できない」という思考回路になってくるのではないかと思います。

④ 私が学生の頃は多くの仲間が生意気で、「何で制服を着る必要があるんだよ」などと反抗していました。私も都立高校に通っていた頃、「学校の校則には『標準服』と書いてあるだけで、『制服を着ろ』とはどこにも書いていない」と主張して、詰襟の制服ではないものを着ていき、先生を困惑させたりしていたものです。

単に生意気だっただけですが、当時は権威には反抗するものだという学生運動の空気もあって、目上の人言うことを聞く必要はない、自分で判断すればいいんだ、という考え方でした。

いまは理不尽な校則が「ブラック校則」と呼ばれ、ニュースで取り上げられます。一九七〇年代や八〇年代、全国的に学校が荒れていた頃に、何とか統制をとろうと、先生たちにとって指導しやすいかどうかという観点で作った校則が、そのままずっと続いてきているのです。

靴下は白でなければならずワンピースポイントがついているものもダメ、女子生徒のスカート丈は膝下何センチでなければならぬ、などです。さらには頭髪の「染色・脱色」を禁止する校則がある学校で、生まれつき髪が茶色の生徒に対し、先生が黒く染めるよう強要するという事態まで起きています。染色が禁止なのに「黒に染めろ」とは、おかしい話です。こうした指導を受けたある生徒は不登校になってしまい、裁判にもなりました。

多くの生徒は「いまどきどうしてこんな校則を守らなければいけないのか」という疑問を持たず、先生側もそうした疑問を持たせないようにしています。^⑤こうした状況はおかしいでしょう。じょうきょう

本来的には、生徒たち自身で校則を作ればいいと思います。^⑥自分たちで作れば、理不尽でない校則ができるし、それを守るようになるでしょう。生徒たちを抑えつけるのではなく、生徒たちに自分で判断をするという経験を積ませることが、大事なのです。おさ

東京工業大学の講義で以前、ブータンにおける「国民総幸福 (GNH= Gross National Happiness)」の話をしたことがあります。

「国内総生産 (GDP=Gross Domestic Product)」は、一定期間内の経済活動のすべてを金額で換算^{かんさん}して、各国の豊かさを見る指標です。でもGDPにも限界があります。たとえば交通事故が多く、毎年多くの車が廃車^{はいしゃ}になって新車が売れるとなると、GDPは上がるわけです、多くの人が交通事故で怪我^{けが}をして病院で治療を受ければ、医療費がかかってそれだけGDPは上がります。交通事故という不幸なことによってもGDPの金額は増えていくのです。

一方でブータンは、国民総幸福という考え方で、二年ごと八〇〇〇人に聞き取り調査しアンケートをとって、数値を算出しています。たとえば「あなたは一日に瞑想^{めいそう}する時間をどれだけ持っていますか？」という質問がある点、さすがチベット仏教の国だなと思います。日本では瞑想する時間なんて持っていないという人が大半でしょうが、一日に三分でもじっくりと心を鎮^{しず}める時間を持つことができれば、それは心のゆとり、生活の豊かさにつながるでしょう。

また「あなたは地域の祭りに参加していますか？」という質問もあります。これはつまり、地域の祭りが存続していて、地域のコミュニティがしっかり残っているということです。いま日本では高齢化^{こうれい}が進み、祭りがどんどんなくなってきています。地域に祭りがあって、それに参加しているということは、すなわちそのコミュニティの中で受け入れられているということです。^⑦幸せを表す尺度として、納得です。

この講義の数週間後、抜き打ちの小テストをして、「もし日本でGNHというものを算出することになったら、あな

たはどんなアンケートの項目を立てますか？ それを答えなさい」という問題を出しました。

私はそのとき、もしこういう答えがあったらいい点を与えようと思っていたものがありませんでした。それは「幸福というのは極めて主観的なものであって、これを客観的なデータで算出することはできない。よって、池上教授の問い自体が成り立たない」というものです。

さすがにこのように書いた学生はいなかったのですが、それでも「極めて主観的なことを客観的データで算出することはできないが、池上教授がそれを出せというから、仕方がないから答える」という前提条件を書いていた生徒がふたりいました。彼らにはいい点数をあげました。つまり、

X

。そういうことが、実は大事なのではないかと思うのです。

⑧ いまあなたも一生懸命、どんなアンケート項目にしたらいだろうか？ と、思わず考えていたのではないでしょう。

（池上 彰『なぜいま思考力が必要なのか』より）

※ 詰襟 —— 洋服の形態のうち、首元までボタン、ホックあるいはその他の方法で閉めて着用するタイプの襟

★ 問題の中で指定する字数には、句読点、かつ二類をふくみます。

問 一 —— 線部①「素直すぎる人」とありますが、ここで言っている「素直すぎる人」に当てはまらないものを次の

ア エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 情報を疑いもせず信じてしまう人 イ 物事には正解があると思いこんでいる人

ウ すぐに納得してそれ以上調べない人 エ わからないことがあるとすぐに図書館に行く人

問 二 —— 線部②「身につき方が全然違います」とありますが、その理由として最も適切なものを次のア エから選

び、記号で答えなさい。

ア 問題を解くために自分の頭を使って試行錯誤さくごする中で、自然と思考する力が培つちかわれているから。
イ 自分で解法を導き出そうとすることによって、誰かに頼たよろうとする気持ち^が失われるから。
ウ 先に問題の解き方について知っておくことで、問題解決に向けた効率的な頭の使い方が身につくから。
エ 正解を知ってから自分自身で逆算して思考する中で、いつの間にか考えの道筋が立てられるようになるから。

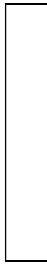
問 三 — 線部③ 「『正解のない問い』を考える力なんて自分にはない、いっそ最初から考えない方が楽だ」とあり

ますが、このような考え方から、どのような状況が生まれたのですか。「く状況」につながる形で、二十五字以内で説明しなさい。

問 四

— 線部④ 「私が学生の頃は多くの仲間が生意気で、『何で制服を着る必要があるんだよ』などと反抗くうらんしていました」とありますが、筆者は何のためにこのような例を挙げたのですか。それに答えた次の文の空欄くうらんに当てはまる箇所を本文中から三十字でぬき出し、最初と最後の三字で答えなさい。

今と比べて、



という考え方の人が多かったことを示すため。

問 五 — 線部⑤ 「こうした状況はおかしいでしょう」とありますが、なぜ「おかしい」のですか。最も適切な

ものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 筆者は、靴下やスカート丈などの服装に関する規定は、本来は各家庭の判断に任されるものであり、その規定を学校がつくるべきではないと考えているから。

イ 筆者は、自分たちの学校なのだから、主体的にルールづくりに取り組むことが思考力強化の観点からしても必要なことだと考えているから。

ウ 筆者は、ブータンにおける「国民総幸福（GNH＝Gross National Happiness）」の考え方を校則などのルールづくりに反映させるべきだと考えているから。

エ 筆者は、自分たちで考え、判断する力を育成させるためには、今あるすべての校則を疑い、根本的に変えてしまうことが大切だと考えているから。

問 六

— 線部⑥ 「自分たちで作れば、理不尽でない校則ができるし、それを守るようになるでしょう」とありますが、この意見に対して批判的な立場からあなたの考えを書いてください。ただし、書き出しは「本当にそうでしょうか。」とすること。

問
七

——線部⑦「幸せを表す尺度として、納得です」とありますが、筆者はどのようなことを「幸せ」と考えているでしょうか。次のア～カから適切なものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア 高こう齡れいになっても安心して生活できること

イ 好きな時に瞑めい想そうすることができること

ウ 住んでいる地域の文化が充じゅう実じつしていること

エ 生活している集団になじんでいること

オ 精神的に余よ裕ゆうがあること

カ 生活圏内の事故が少ないこと

問
ハ

X

にはどのような内容が入ると考えられますか。次のア～エから最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア できないことがあればできないよと素直に伝え、教授の指示にしたがう

イ 相手が教授だからといって何でも言うことをきかず、まずははっきりと反抗する

ウ 問い自体を疑うし、そんな問いに答えなんかないよと思ったら、率直に伝える

エ 教授が求めている解答を、しっかりと自分の頭を使って考え、それを自分の言葉で伝える

問
九

——線部⑧「いまあなたも一生懸命、どんなアンケート項目にしたらいだろうか？」と、思わず考えていたのではないのでしょうか」とありますが、この一文は本文においてどのような役割を果たしていますか。次のア～エから最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 本文の内容を踏まえ、読者も同様の思考に陥おちいっていないかと皮肉めいた表現を使うことで、読者に自分のこととして考えさせる役割を果たしている。

イ 読者にも自分自身で考えてもらうために、本文につながる具体的な課題を投げかけることで、読者の興味を読後も継続けいぞくさせる役割を果たしている。

ウ 最後に読者に疑問形で呼びかけることで、本文を通じて生じた課題について、読者に自分のこととして印象付ける役割を果たしている。

エ 本文を読み終えた読者に、本文の内容を踏まえた冗談じょうだんのような表現で問いかけることで、余韻よゐんを楽しんでもらう役割を果たしている。

【三】次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(ここまでのあらすじ)

中学一年生の水野早紀は、吹奏楽部に所属しているという理由で合唱コンクールの指揮者を任されるが、内気な性格のためクラスをうまくまとめることができずに悩んでいた。クラスメイトの金田晴美の助力もあり、クラスがまとまってきたところで、幼馴染で天才ピアニストの井川音心が、早紀と晴美のソリ(二人程度でソロパートを歌うこと)を取り入れる提案する。早紀はソリに不安を覚え、自主練習をするために一人登校した。

校舎の時計は、まだ七時にもなっていないかった。こんなに早く登校したのは初めてだ。

開いているかどうか、試すように通用門の方を押すと、扉は抵抗なく開いた。

しんとした学校は、まだ眠りから覚めていないようだった。早紀も遠慮するように、昇降口に向かってそろそろと足を進めた。

体育館の横を通っているときだ。中からボールが跳ねる、ダンという音が聞こえた。

早紀は驚いて立ち止まった。しばらく耳をすませていると、もう一度、ボールが何かに当たって、床に落ちる音がした。

……バスケット?

誰かがこんなに早くから練習をしているようだ。上級生だろうか。

思いも寄らなかった。生徒の中では、自分が一番乗りであることを確信していた。いったい誰なのか気になる。

体育館の入口の方に、さらに足音をしのばせて近づいた。体育館の扉は開け放たれていた。男子生徒がひとり、こち

らに背^せを向け、奥^{おく}のゴールに向かってシュート練習をしていた。

靴^{くつ}を脱^ぬぐスペースのところまで、そっと足を運^{はこ}ぶ。

がちりした上半身に、二階^{まど}の窓^さから差し込む朝日^こが当たっている。ライトのついていない体育館で、彼の姿^{かた}は浮^うき上がって見えた。

彼はゴールに向かって身構^{みくま}えた。とても集中していることが、離^{はな}れていても伝わってきた。

自分のせいでこの集中^{みだ}を乱^{みだ}してはいけない。

早紀は息をつめた。

彼はボールを放^{はな}った。ボールはゴールのバックボードに跳ね返^{もど}って、そのまま戻^{もど}ってきた。ボールが床を打つダンという振動^{しんどう}が、緊迫^{きんぱく}した空気を震^{ふる}わせた。

彼がもう一度、構^{くま}える。早紀はまた息を止める。

放^{はな}たれたボールは、ゴールの縁^{ふち}でためらうように揺^ゆれたあと、外側に落ちた。彼の肩が落ちた。早紀は鼻からゆっくり息を吐^はいた。

彼がボールを拾^{ひろ}いに行った。こちらに向き直るのでは、と早紀は身を硬^{かた}くした。でも、うつむいてドリブルしていた彼は、早紀の姿に気づくことなく、もとの位置に戻^{かえ}った。

① 早紀はホッとしたのもつかの間、気配^{しんちよう}を消^こすことに集中し、いっそう慎重^{しんちよう}に呼吸^{こきゅう}を繰り返した。

彼はリラックスさせるように、首を左右にこきこき折^ひった。その場で二、三度ボールをつく。そして、祈^{いの}りをこめるようにボールを見つめたあと、構^{くま}えに入った。

たかが一本のシュート練習にすぎないのに、彼が大事な試合でフリースローをするような錯覚^{さつかく}に陥^{おちい}った。ボールが放^{はな}たれた。

お願い、入って。

気づくと胸むねのところで、両手を合わせていた。

ガンという鈍にぶい音がした。ボールはゴールを捉とらえるところか、枠わくに当たって勢いよく跳ね返ってきた。受け取りそびれたボールは、入口の方に転がってきた。

彼が後ろを振り向いた。

早紀は直立不動になった。

ボールが減速しながらやってくる。

逃げ出すことも、もちろん声をかけることも、ボールを拾おうとすることすら出来なかった。

彼は、同じクラスの岳がくだった。

どんなに目立たない存在そんざいだからといって、そしていくら気配を消そうとしていたからといって、このシチュエーションで早紀に気づかないわけではない。

岳は一瞬驚いつしゆんきの表情を見せた。片脚かたあしをかばいながら、こちらに向かってくる。右脚にサポーターを巻まいていることに、このとき初めて気がついた。

うまくいかなかったシュートを見られたせいなのか、岳は決まりが悪そうに目をそらせた。

岳は早紀のすぐそばまでやって来ると、ボールをつかもうと腰こしを折った。

そのとき、ふわっといい香りがした。

柑橘系の爽さわやかな香りに、甘く香ばしいような香りが混ざったような、今まで嗅かいだことのないとてもよい香りだった。髪かみに何かつけているのだろうか。

早紀は知らず知らずのうちに、息が続く限り香りを吸すい込んでいた。

ボールを拾い上げるときにぶつかった岳の目の鋭さに、ふと我に返った。射るような目だ。

目力の強い岳の目を、こんなに間近で見るのは初めてだ。別に戦っているわけではないのだが、その視線攻撃だけで、早紀は白旗を揚げたい気持ちになった。

「何」

さらに、思いつき②ふきげん不機嫌そうな言葉を浴びた。

「……」

早紀はどぎまぎして、細い身をさらに縮こまらせた。岳はふいっと背を向けると、ボールについて戻りながら、
「俺、そっちには出ねえし」

捨てゼリフみたいに吐いた。

ああ、そういうことか……。

合点がいった。さっき、早紀の姿に気づいたときに目をそらしたのは、合唱コンの朝練に出ていないことへの後ろめたさがあったようだ。

でもまさか、晴美ならともかく、早紀が岳に対して朝練に出ないことをなじったり、出るようお願いしたりするなんてこと、絶対はない。

別に誘いに来たわけじゃないと、岳の勘違いを訂正したかったが、それも出来そうになかった。

(中略)

早紀は学校に向かいながら、ふうとため息をついた。

朝から浮かない顔をしていたのは、岳が自分のせいで、合唱コンクールに出なかったらどうしよう、という心配が止まらなかったからだ。

昨日の朝、早紀は体育館をのぞいた。でもそれは、岳を合唱に誘うためでも、なじるためでもなかった。けれど、どうやら誤解ごかいされたということは、たぶん間違まちがっていない。

岳はこう言ったのだ。

——俺、そっちには出ねえし。

そのとき、早紀は朝練のことを言っているのだと思い込んでいた。でも、晴美の話を聞くと、「そっち」というのは、合唱コンクール本番のことを指しているようにも、とれなくはない。

③もし、わたしのせいで……。

早紀は学校への道すがら、ずっと同じことを考えていた。気づいたら、もう校門の前まで来ていた。一瞬立ち止まって、体育館に目をやる。

岳はもう来ているだろうか。

早紀は歩みを進めた。鼓動こどうが速くなる。

体育館のわきをスローモーションみたいにゆっくり歩く。でも、体育館からは何の音も聞こえてこなかった。

……来ていない。

体育館だけではなく、校舎も校庭も中庭も、全てがまだ眠りから覚めていないようだった。^④ねむ

誰もいないだっ広い空間に、ひとりぼつりといえるような孤独感がわき上がってきた。ひんやりした風が首筋くびすじを通り抜けた。ブレザーの袖口そでぐちを指を折ってつかんだ。

体育館を通り過ぎてしまうそのときだった。中から、ダンというボールの跳ねる音が聞こえた。

パッと振り返った。今度は、ダンダンと続けて音が聞こえた。早紀は走り出していた。

本当は岳が来ていても、体育館には顔を出すまいと決めていた。

これ以上余計なことはしない方がいいと、分かっていた。
それなのに、勝手に足が向かっていく。

昨日と違って、早紀はそっと近づくんてことは、出来なかった。夢中で体育館の入口まで駆け込んで、そこでようやく足を止めた。

岳が振り向いた。怪訝けげんそうに眉をひそめている。その鋭い目に射られたように、心臓しんぞうが縮みあがった。岳のこの視線の強さに、まだ耐性たいせいがない。

岳はボールを床に置くと、こちらに向かってきた。

⑤ 金縛りかなしばりにあったみたいに体がフリーズした。

いったい何のために、わたしはここにいるのだろう。

岳が目の前まで来た。

「何？」

昨日と同じ単語だった。黙だまっているわけにはいかなかった。

「合唱……コンクール」

小さなささやくような声は、背の高い岳の耳には届とどかなかったらしい。

「え？ 何て言った？」

岳は少し背をかかめ、早紀の方に片耳かたみみを寄せた。岳との距離きょりが近づく。胸が苦しい。

そのとき、あの香りがふわっと広がった。
すがすがしく、
※こわく
清々しい爽やかさの奥底おくに広がる、
蠱惑こわく的な甘さ。

——シトラスムスクの香り。

早紀はそつと息を吸い込んだ。爪の先まで、香りがいきわたるようだった。

極度の緊張ががすかに弛緩した。
※しかん

「合唱コンクール、休んだりしないよね？」

やっと言えた。

「何で？」

岳は不思議そうに首をかしげた。その表情に、一気に力が抜けた。

早紀は仕方なく、^⑥晴美から聞いた話を持ち出して、心配になってしまったことを、ぽつぽつ打ち明けた。

「あいつ、ばっかじゃね」

岳は上体を起こすと、吹き出した。

「俺、まだ保育園児かよ。これでも無遅刻無欠席。合唱コンクールも休まないし」

ホッとすぎて思わず目が潤んだ。なんでこんなことで涙腺が緩んでしまうのか、不思議だった。

「にしてもよ。キンタのやつ、そんな昔の話出してきやがって。くそっ。あ、でもこれでイーブンだな」

何がイーブンなのか、早紀には意味の分からないことだった。

ふたりの親密さ加減をつきつけられた気がして、忽然と現われたもやもやとした気持ちに、早紀はうろたえた。

フランクな感じになった岳は、話を続けた。

「でさ、どうなの、そっちは？ 指揮者だっけ。うまくいってんの？」

「実は……。指揮だけじゃなくて、一部で歌も歌うことになって」

「らしいな」

岳が知っていることに驚いた。

「自信ないんだ」

誰にも言えなかった言葉が、^⑦ほんと床に落ちた。

「失敗してみんなに迷惑^{めいわく}かけたらって思うと、怖い^{こわ}。わたしは音心みたいに、音楽の才能があるわけじゃないし」
聞き役に回っていた岳が、口を開いた。

^x「才能^{うらや}があるやつっていうのは、羨ましいよな」

岳はまるで誰かを思い浮かべるように、遠くゴールの方に目をやった。

「ちくしょー、うまくなりてえ」

いつも自信に満ちあふれているように見える岳が、他人のことを羨^{うらや}むなんて予想だになかった。

「でもさ」

岳は言葉を切ると、照れくさそうに鼻のあたりをこすった。

「俺^yたちにも才能^{うらや}、あるんじゃない？」

早紀は弾^{はじ}かれたように、岳を見上げた。

俺たち？ 才能？

「めげない才能がさ」

「めげない、才能？」

^{まばた}^{わす}瞬きを忘れたように、岳の目をじっと見つめた。

「自分よりすごいやつがそばにいても、差を見せつけられても、それでも絶対めげない才能」
真面目に泣きそうになった。

「だいたいさ、こんな朝早くから練習するやつ、他にいる？ 自信持とうぜ」

岳がニツと笑った。早紀の頬ほもやっとなゆるんだ。

⑧「いいか、見てろよ」

そう言うのと、岳は体育館の中の方に、ゆっくり歩いて行った。ボールを拾い上げると、その場でダンダンと二回ついた。

何をするかは分かった。

大切なものを愛おしむように、ボールを両手で持つ。岳が意識を集中させていくのが、ぴんと張り詰めた空気を通って、早紀にも伝わってきた。

岳はゴールに向かって慎重しんちょうに構えると、ふわりと体を浮かせた。

ボールがゴールに向かって弧こを描く。

シュポツという小気味よい音をさせて、ボールは網あみをすり抜けた。

（佐藤 いつ子『ソノリティ はじまりのうた』より）

※ 蠱惑的 ——— 人の心を引きつけてまどわすようなさま。

※ 弛緩 ——— ゆるむこと。たるむこと。

★ 問題の中で指定する字数には、句読点、かっこ類をふくみます。

問 一

——線部①「早紀はホッとしたのもつかの間、気配を消すことに集中し、いっそう慎重に呼吸を繰り返した。」とありますが、早紀がそうしたのはなぜですか。次の文の空欄に当てはまるように、理由が書かれている箇所を二十字以内でぬき出し、最初と最後の四字を答えなさい。

彼がシュート練習をする姿を見て、

と思ったから。

問 二

——線部②「不機嫌そうな」とありますが、岳がこのような態度をとっている理由として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 朝早く登校して練習に励んでいるのに、なかなか成果が表れないことにいら立ちを感じているから。

イ 誰にも邪魔をされずに練習がしたかったのに、思いがけず早紀が現れて練習を続けられなくなったから。

ウ 合唱の朝練には参加せずにバスケットの練習をしていることを、早紀に非難されると思ったから。

エ 自分が練習に参加しないせいでクラスの合唱が上手くいっていないことを知り、罪悪感を抱いたから。

問 三

——線部③「もし、わたしのせいで……。」に続くように、早紀の言葉を考えて二十五字以内で書きなさい。

問 四

——線部④「全てがまだ眠りから覚めていないようだった」とありますが、これはどのような様子を表していますか。二十字以内で説明しなさい。

問 五

——線部⑤「金縛りにあったみたいに体がフリーズした」とありますが、この時の早紀について述べたものとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 何かに突き動かされるように体育館に向かったが、思いがけず早紀に気づいて近づいてくる岳の前に、

どうしていいかわからず体が動かなくなっている。

イ どうしても誤解を解きたいと思い体育館に向かったが、練習を邪魔した早紀をとがめるような岳の表情に、ここに来たことを後悔している。

ウ 昨日のことを謝ろうと思って体育館に向かったが、思ったより怒っているように見える岳の視線に、足がすくんで逃げられないでいる。

エ 考へとは裏腹に気づくと体育館に向かっていたが、不審そうな目で早紀に近づく岳を見て、自分の気持ちに気付かれたと思い立ち尽くしている。

問 六

——線部⑥「晴美から聞いた話」とありますが、どのような話だと考えられますか。会話の流れから考え、最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 保育園の頃に、歌が上手に歌えなくて大勢の前で恥をかいってしまったという話

イ 朝練の様子を誰にも気づかれなかったのに気づかれて落ち込んでいたという話

ウ 保育園児だった頃、当日になって演劇の発表会の本番を欠席したという話

エ 朝練の時にボールを拾ってくれなかったことを未だに根に持っているという話

問七

——線部の「ぽんと床に落ちた」という表現からわかることとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 意外にも岳が合唱コンクールのクラスの内情を知っていることに驚き、急に自信がなくなったということ。

イ 岳が気楽な感じで話してくれるので、自分の話をする自信がなくなってしまったということ。

ウ 誰にも言えずにいたことだったので、岳に話すこともためられるような内容の話だったということ。

エ わざわざ言おうと思っていたわけではなく、岳と会話をする中で思わず出してしまった言葉だということ。

問八

二重傍線部X・Y「才能」について説明したものとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア Xは、生まれながらにして備わっている特別な能力のことを表しているが、Yは、後天的に手に入れた何事にも耐^たえることができる強い心の持ちようを表している。

イ Xは、その分野における優^{すぐ}れた技術や能力のことを表しているが、Yは、劣等感^{れっとうかん}を持ちそうな状況^{じょうきよう}においてもあきらめずに続けようとする心の持ちようを表している。

ウ Xは、周囲に迷惑^{めいわく}をかけることなど考えずに持っている力を発揮^{はつき}できることを表しているが、Yは、誰とでもうまくやることができる柔軟^{じゅうなん}な心の持ちようを表している。

エ Xは、複数のことを同時にこなすことができる能力を表しているが、Yは、一つのことをひたすら取り組み続けようとする真面目な心の持ちようを表している。

問
九

——線部⑧「いいか、見てろよ」とありますが、この後の岳の行動の理由として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 失敗した姿しか見られていないため、雪辱^{せつじよく}を果たそうと思ったから。
- イ 孤独感を抱いている早紀に、自分だけは味方だと伝えたかったから。
- ウ 今までの自分の練習の成果を、誰かに見届^{みとど}けてもらいたかったから。
- エ 自信が持てず不安そうな早紀を、勇気づけてあげたいと考えたから。

【二】

③ 問一 エ

③ 問二 ア

④ 問三 指示されないと自分たちの行動を決められない状況

③ 問四 目上の 〽 いんだ

③ 問五 イ

⑧ 問六

① × 2

② 問七 エ・オ

③ 問八 ウ

④ 問九 ア

【三】

問一 (3点) 自分のゝいけない

問二 (3点) ウ

問三 (4点) 岳が合唱コンクールに参加しなかったらどうしよう

問四 (4点) 人が誰も居らず、静まり返っている様子

問五 (3点) ア

問六 (3点) ウ

問七 (3点) エ

問 問
九 八

(4 (4
点 点))

工 イ

受験番号	
アルファベット	
氏名	得点

【一】 問 一

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

問 二

(1)
①

②

(2)

(3)

【二】 問 一

問 二

問 三

25

状況

20

問 四

5

問 五

問 六

問 七

・

問 八

問 九

【三】 問 一

5

問 二

問 三

25

20

問 四

20

問 五

問 六

問 七

問 八

問 九

受験番号						
アルファベット	<table border="1"><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>					
	氏名					
	得点					

凡例

1点

2点

3点

4点

5点

8点

【一】 問 一

① きしゆ

② けっぱく

③ るいじ

④ けびよう

⑤ こくもつ

⑥
健康

⑦
季節

⑧
有益

⑨
輸送

⑩
操縱

問
二
(1)

①
ア

②

イ

(2)

ア

(3)

ア

【三】
問
一
エ
問
二
ア

問 三	
い	指
	示
	さ
	れ
25	な
状況	い
	と
	自
	分
	た
	ち
	の
	行
	動
	を
決	
め	
ら	
れ	
な	

問
四

目
上
の

↓

い
ん
だ

問
五

イ

問 六

問
七

工

・

才

問
八

ウ

問
九

ア

【三】

問一

自分のせ

いけな

い

問二

ウ

し	岳
よ	が
う	合
	唱
	コ
	ン
	ク
	ー
	ル
	に
	参
	加
	し
	な
	か
	っ
	た
	ら
	ど
	唱

問 四 人が誰も居らず、静まり返っている様子

問
五

ア

問
六

ウ

問
七

エ

問
八

イ

問
九

エ